



SANSHIN GROUP
Monthly Report on the ESG
Apr.2023

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report（品質）
4. ESG Report（環境）
5. ESG Report（地域貢献とワーク・ライフ・バランス）
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンハウ

TOP MESSAGE

現在、気候変動による影響が肌で感じられることが、皆さん多いと思われませんが、要因としては自然要因（地球自身の変化、太陽活動、火山活動、気候の自然循環）や人為的要因（温室効果ガスの排出、地表面変化（森林伐採や都市開発、農地の転換））があります。日本での影響においては、世界より早いペースでの気温上昇、真夏日、猛暑日の日数増加、強い雨の増加と降水日の減少、多くの地域での積雪減少と、内陸部での大雪増加などで様々なところで発生しています。これによりコメや野菜などが育ちにくくなり海面水温上昇によりサンマなどの水揚げされる魚の成長阻害なども懸念されております。また、気温上昇などにより熱中症患者が年々増加していることも挙げられます。

各国で環境対策も進められていますが、対策や緩和だけでなく、適応していくことも重要になっています。私たちの身近での様々な気候変動の問題が発生している生活の中で取り組む対策もありますが、この状況に適応していくことも不可欠です。

仕事においても様々な変化が起きていく中で、いくら能力が高い人であっても適応できなければ結果に繋がられないということにも類似しています。生活、仕事における適応力向上を目指していくことが私たちに重要であると考えていきたいと思います。

サンシン電気株式会社
取締役 河原 崇

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

太陽光パネルの廃棄...耐用年数から推測すると2030年代後半には年間50万～80万トンが廃棄されると見込まれ、放置されれば有害物質が漏れる危険もあるとのこと。パネルに使われているガラスやアルミ、シリコンなどが大量に排出される恐れがあります。今の環境と未来の環境と...作る時点でライフサイクルを考慮しなければなりません。(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

世界の平均気温は毎年少しずつ上昇し続けており、もはや「～年ぶり」や、「～年に一度の暑さ」といった表現では、危機感が伝わらないのではないのでしょうか。次の世代が暮らしやすい環境にしていく為にも、できることから行動していきたいと思います。(A.W.)

CSI

フィリピンの名物となっている公共交通機関のジプニー。古くは第二次大戦後にフィリピン駐留米軍から払い下げられたジープを改造したフィリピン独自の乗り合いバスです。ジプニーの排気ガス問題や安全性に問題があるとして、従来型ジプニーの廃車とミニバスへの移行を進めており、日野自動車のミニバスをよく見かけます。(K.S.)

SANSHINWest

今年は例年より10日ほど早く桜が開花しました。温暖化の影響によるものですが、さらに進行すると将来的には開花しなくなる、または満開にならずに散ることも予想されるようです。春の風物詩である桜を残していくために、今以上に環境に配慮した行動を心掛けていこうと思います。(F.H.)

SHINKOWA

今月は、急激に暑くなる日も雨、曇りや風が吹く日は急に寒くなる日と交互に存在し、虫の活動が確認できるなど、春を感じられる日々でした。そして、お隣から来た黄砂による影響が色々な地域で確認される日々でもありました。黄砂が来なくなる日は来るのでしょうか。そのためにも今後も、地球環境について身近なことから考え実行する必要があります。(H.K.)

SC2

来る5/1から月末まで、大阪・堺市総合福祉会館内・社会福祉協議会の市民活動ギャラリーにて香害啓発のためのパネル展示が開催されます。こちらの展示会に、ミタスライフから「ペットと香害」のテーマでパネルを6枚提供させていただきました。大阪での開催後は、どこかで更に多くの方に見ていただけるような機会を探したいと思います。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

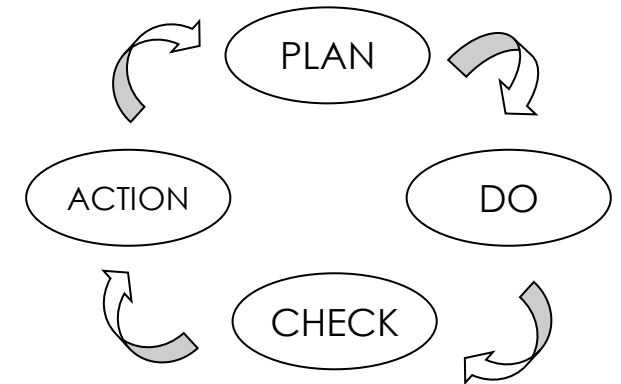
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



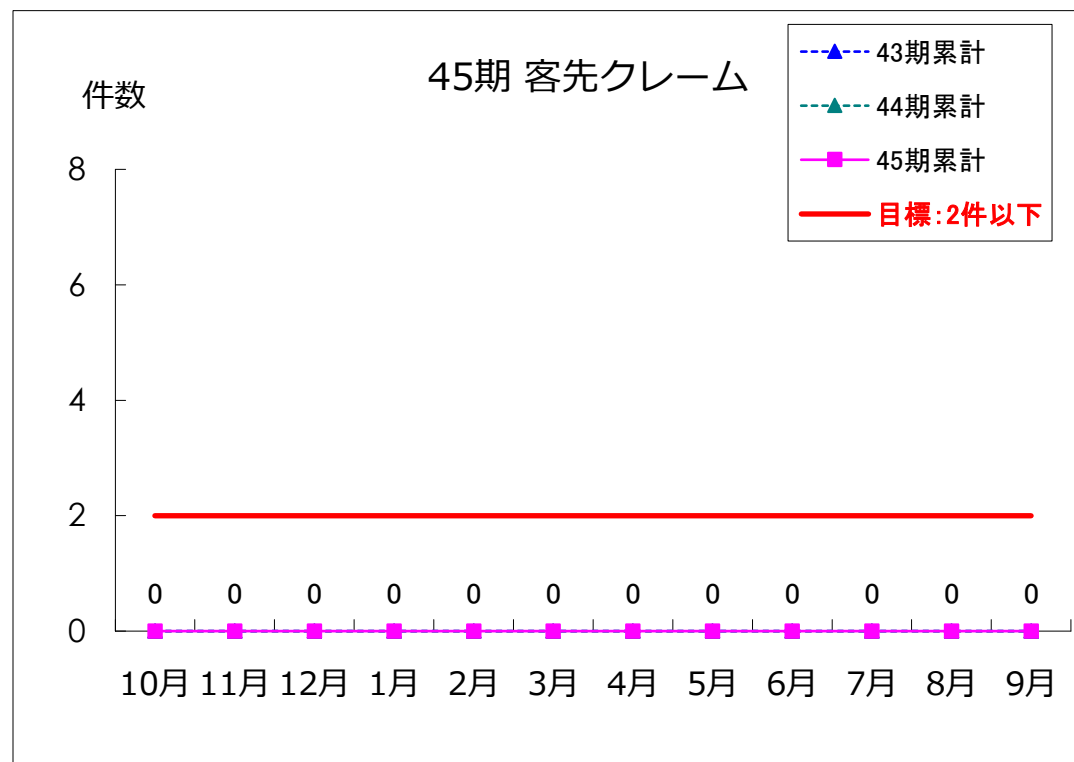
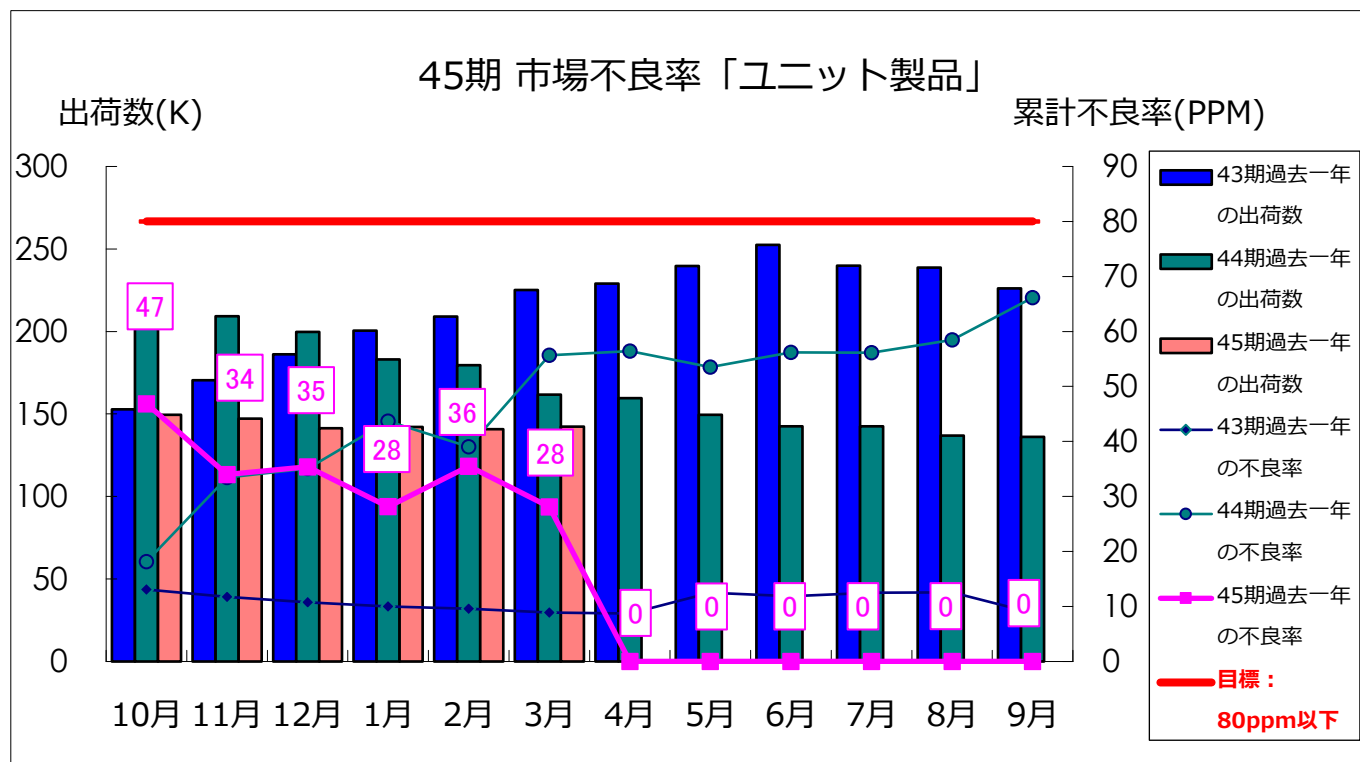
- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

納入品不良率 (目標 : 80ppm)
 45期の累計不良率(解析依頼含む) : 28ppm

客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0件



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

■ G7広島サミットが2023年5月に開催されます

ドイツで開催されたエルマウサミットに続き、次のG7サミットが2023年5月19日から21日の間、広島県広島市で開催されます。日本開催のG7サミットとしては、前回の伊勢志摩サミットに次いで7回目です。



引用元：G7Hiroshima HPより

☑そもそも、G7サミットとは？

G7サミット (主要国首脳会議) とは、7か国並びに欧州理事会議長と欧州委員会委員長が参加して、毎年開催される国際会議です。

☑目的

自由、民主主義、人権などの基本的価値を共有するG7首脳が一つのテーブルを囲みながら、世界経済、地域情勢、様々な地球規模課題について、率直な意見交換を行うためのものです。

☑参加国

日本・米国・イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・カナダ (主要7か国)

これまで日本では、議長国として過去6回の開催を担当してきました。各回の日本国内の開催地は、1979年:東京、1986年:東京、1993年:東京、2000年:九州・沖縄、2008年:北海道洞爺湖、2016年:伊勢志摩です。

今月のTOPICS

☑ G7広島サミットの重要課題

◇背景

今日国際社会は、コロナ禍に見舞われ、また、国際秩序の根幹を揺るがすロシアによるウクライナ侵略に直面し、歴史的な転換点にある。

◇2つの視点

・法の支配に基づく国際秩序の堅持：力による一方的な現状変更の試みやロシアが行っているような核兵器による威嚇、ましてや、その使用はあってはならないものとして断固として拒否し、法の支配に基づく国際秩序を守り抜くとのG7の強い意志を力強く世界に示す。

・グローバル・サウスへの関与の強化：エネルギー・食料安全保障を含む世界経済や、気候変動、保健、開発といった地球規模の課題へのG7としての対応を主導し、こうした諸課題へのG7による積極的な貢献と協力の呼びかけを通じ、グローバル・サウスと呼ばれる国々への関与を強化する。

☑ 重要課題

◇地域情勢

・ウクライナ：G7はロシアによるウクライナ侵略を法の支配に基づく国際秩序への挑戦と捉え、これまで結束して対応。G7として引き続き対露制裁及びウクライナ支援を強力に推進していく。

・インド太平洋：「自由で開かれたインド太平洋」に関するG7の連携を確認・強化する。

◇核軍縮・不拡散

「厳しい安全保障環境」という「現実」を「核兵器のない世界」という「理想」に結びつけるため、G7として現実的かつ実践的な取組を進めていくとの力強いメッセージを発信すべく議論を深める。

今月のTOPICS

◇経済強靱性・経済安全保障

G7エルマウ・サミット的首脳コミュニケで初めて言及。サプライチェーンの強靱化、非市場的政策及び慣行、経済的威圧への対応等の経済安全保障課題に取り組む。

◇気候・エネルギー

ロシアによるウクライナ侵略によりエネルギー安全保障確保の重要性が再認識される中においても、2050ネット・ゼロに向けた目標は不変。主要排出国を巻き込みながら、各国・地域の事情に応じた強靱なエネルギー移行の道筋を示していく必要あり。

◇食料

現下の食料危機を踏まえ、全ての人々の廉価で安全な栄養のある食料へのアクセスと強靱な食料安全保障の確立が急務。そのため、喫緊の食料問題に対処しつつ、世界の食料システムの構造的脆弱性を特定し、その克服への道筋をつける。

◇保健

新型コロナの教訓を踏まえ、将来の健康危機に対する予防、備え及び対応を中心に、グローバルヘルス・アーキテクチャーを構築・強化する。また、より強靱、公平かつ持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に貢献するとともに、様々な健康課題に対応するためのヘルス・イノベーションを促進する。

◇開発

2030アジェンダ及びSDGsの全ての目標の達成に向け、人間の安全保障の考え方を踏まえつつ、「人」に着目し、危機下の脆弱な人々への支援を念頭に議論を行う。また、不透明・不公正な開発金融への対応を議論する。

◇ジェンダー、人権、デジタル、科学技術等の分野についても、引き続き取組を推進。

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。



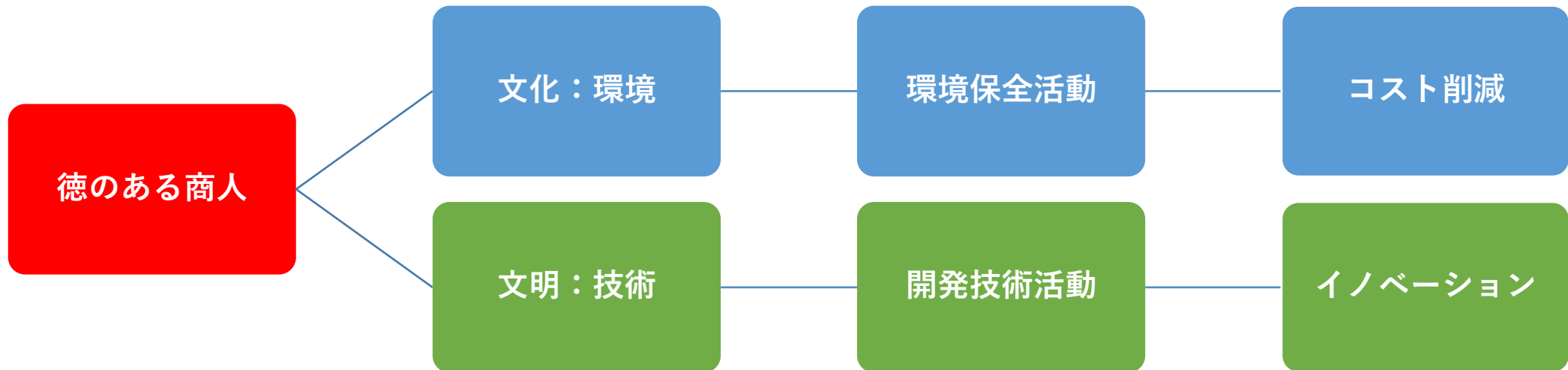
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

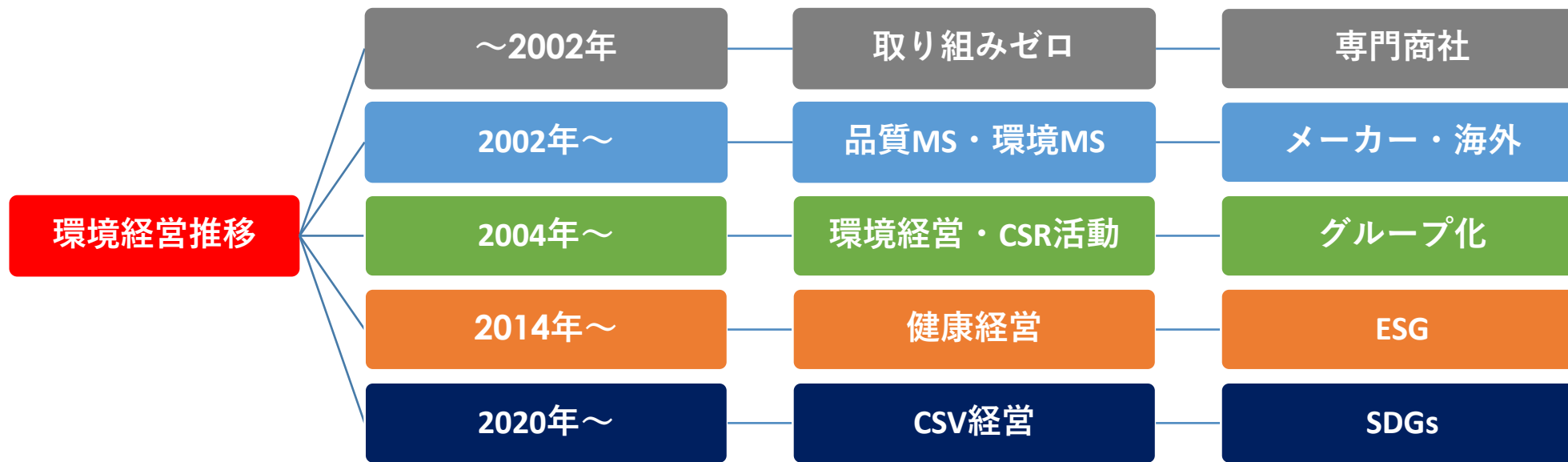
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の文化・文明発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

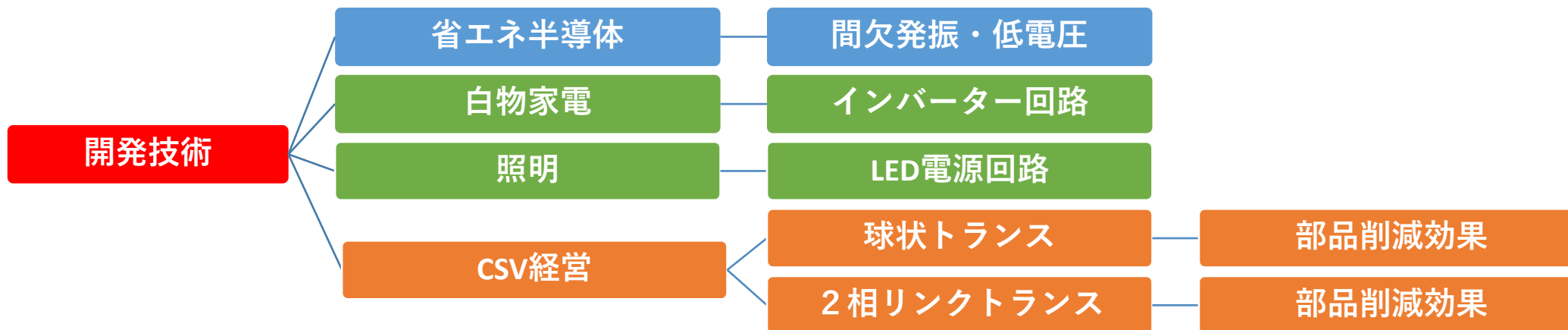
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**, 三種の神器, 徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒ **グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！**

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシンググループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！



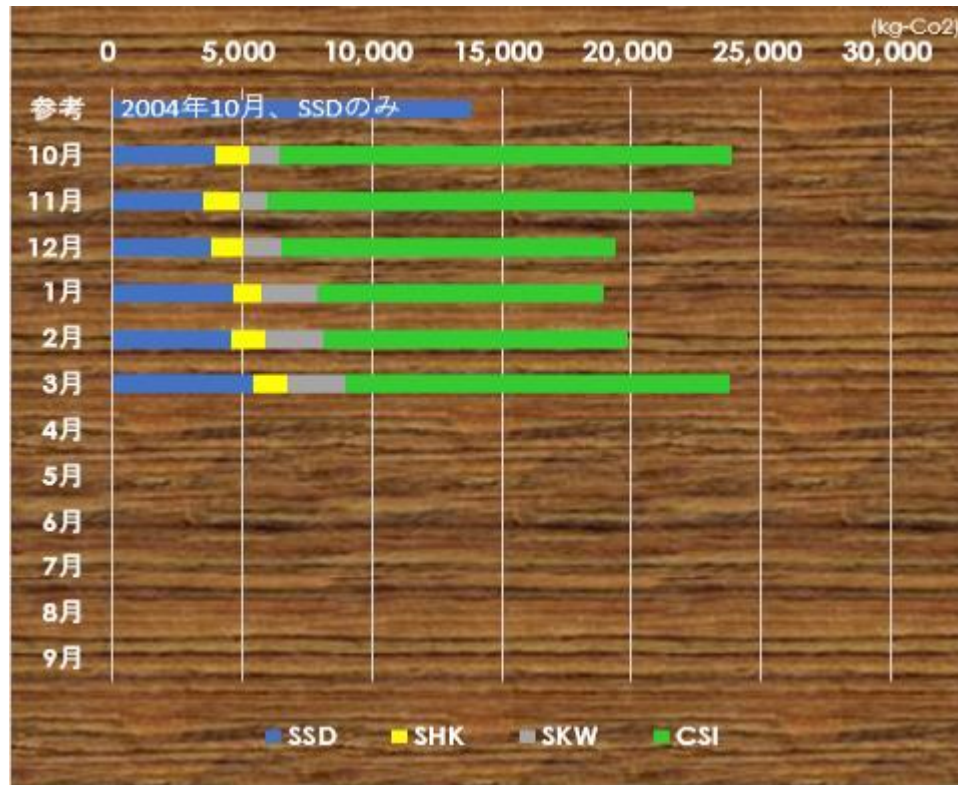
活動報告

- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

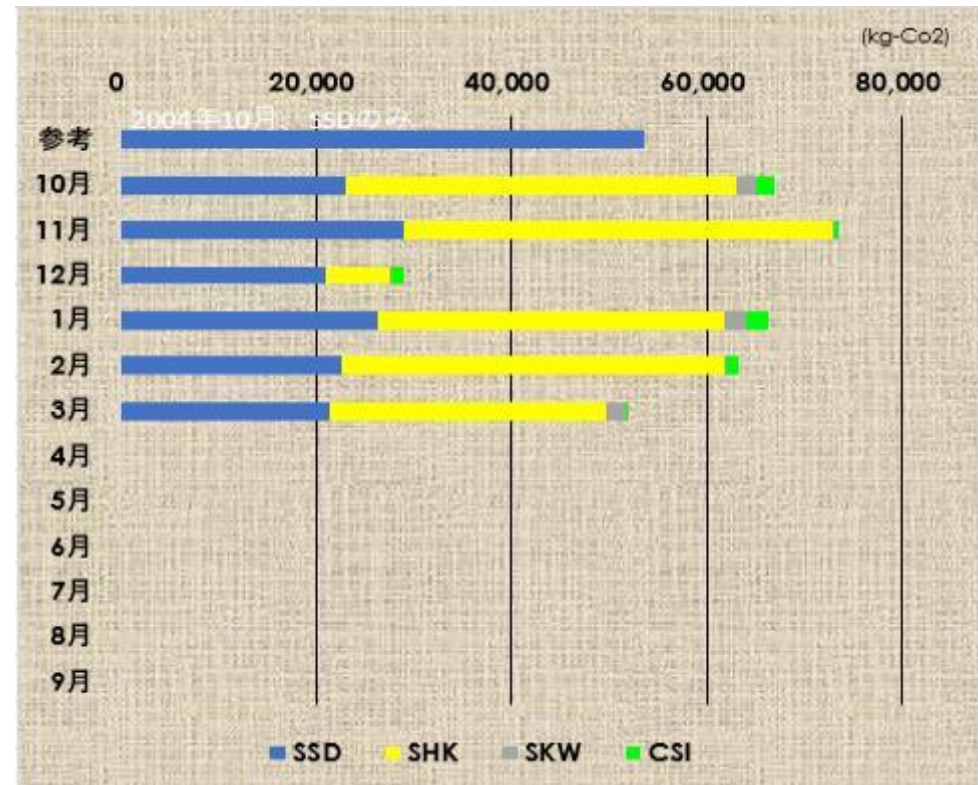
SSGサプライチェーン排出量

サンシングループではサプライチェーン排出量前年比▲5%に取り組んでいます

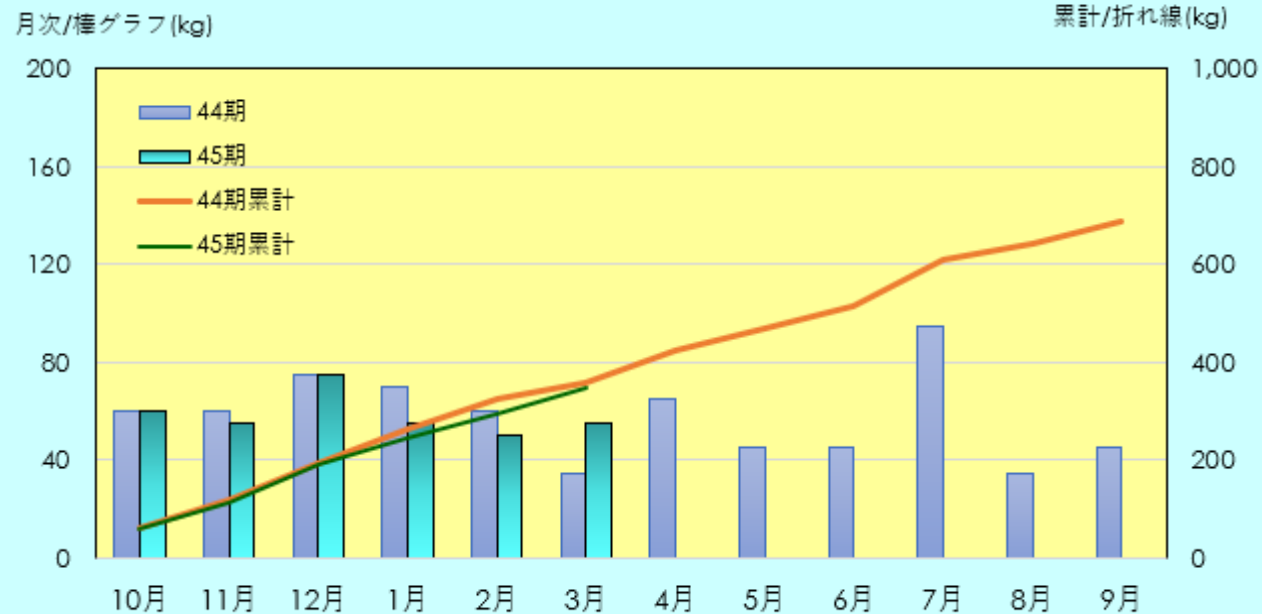
- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）



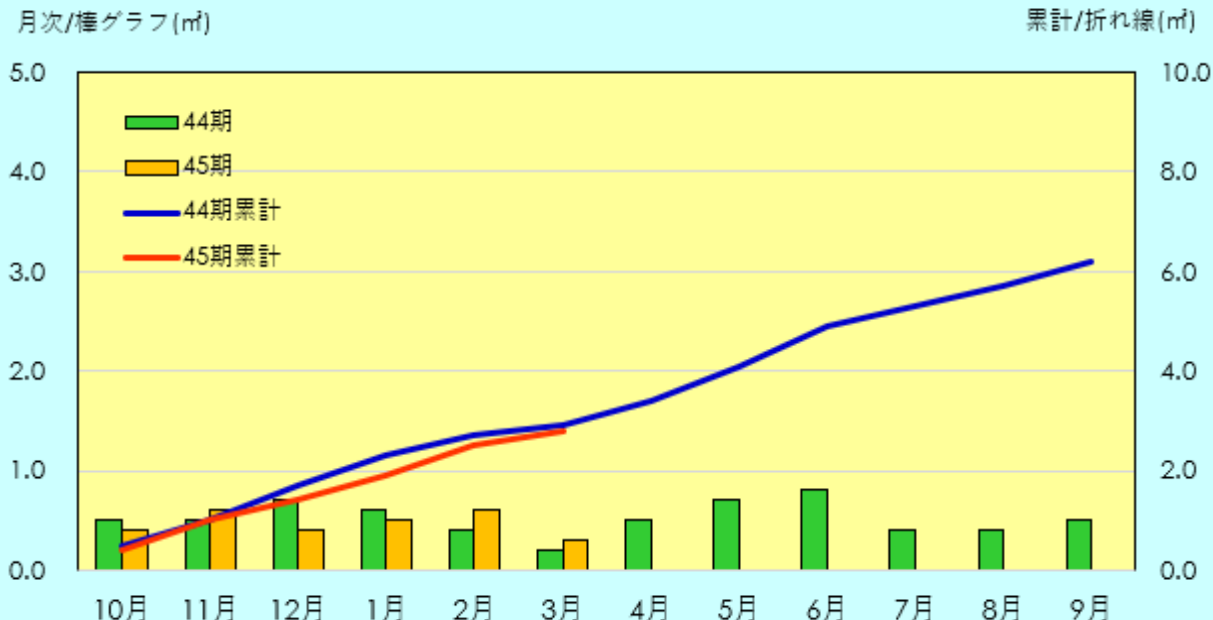
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



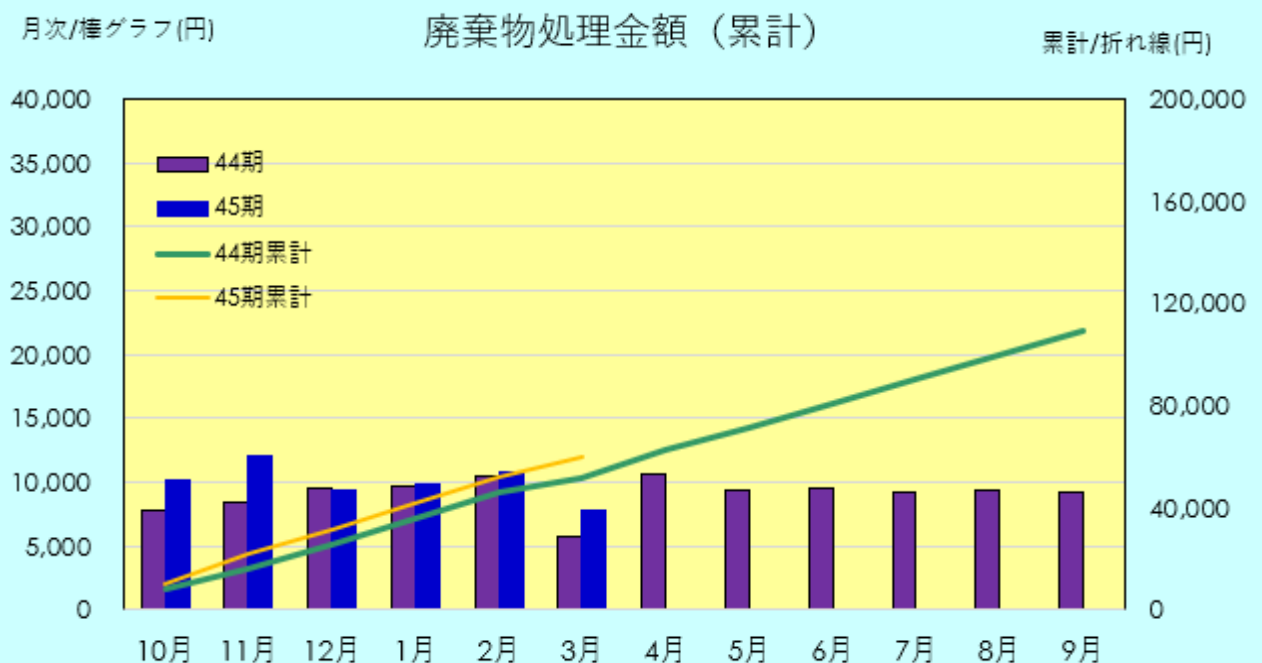
一般廃棄物 (SSD/本社)



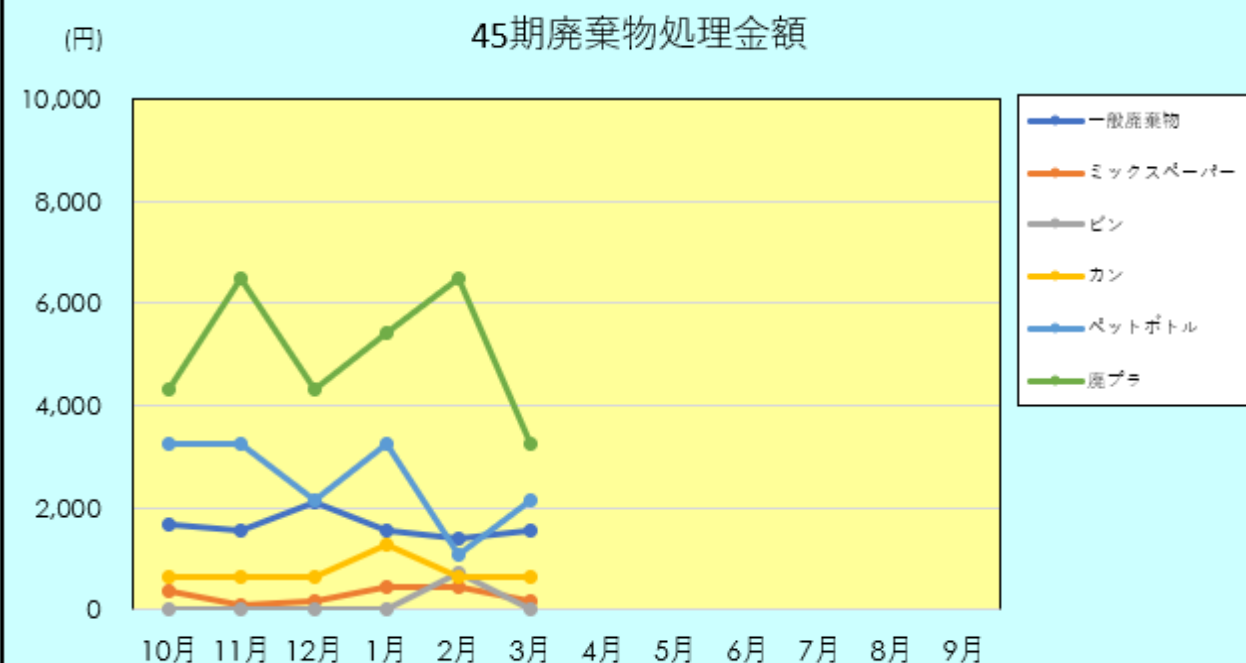
一般産業廃棄物 (SSD/本社)



廃棄物処理金額 (累計)



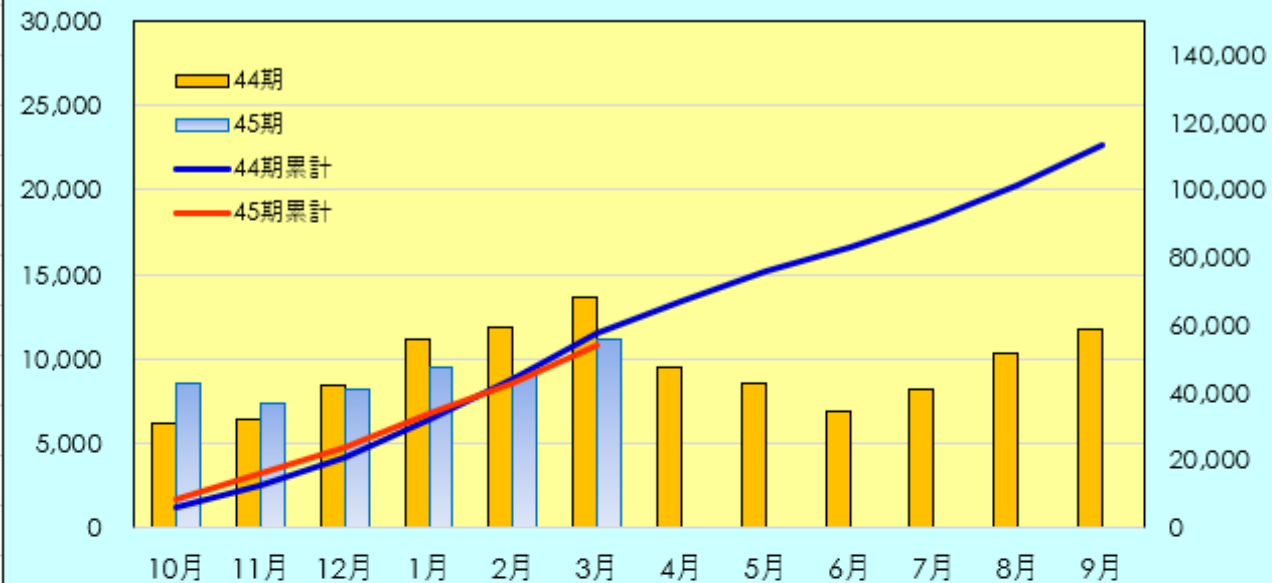
45期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ (kwh)

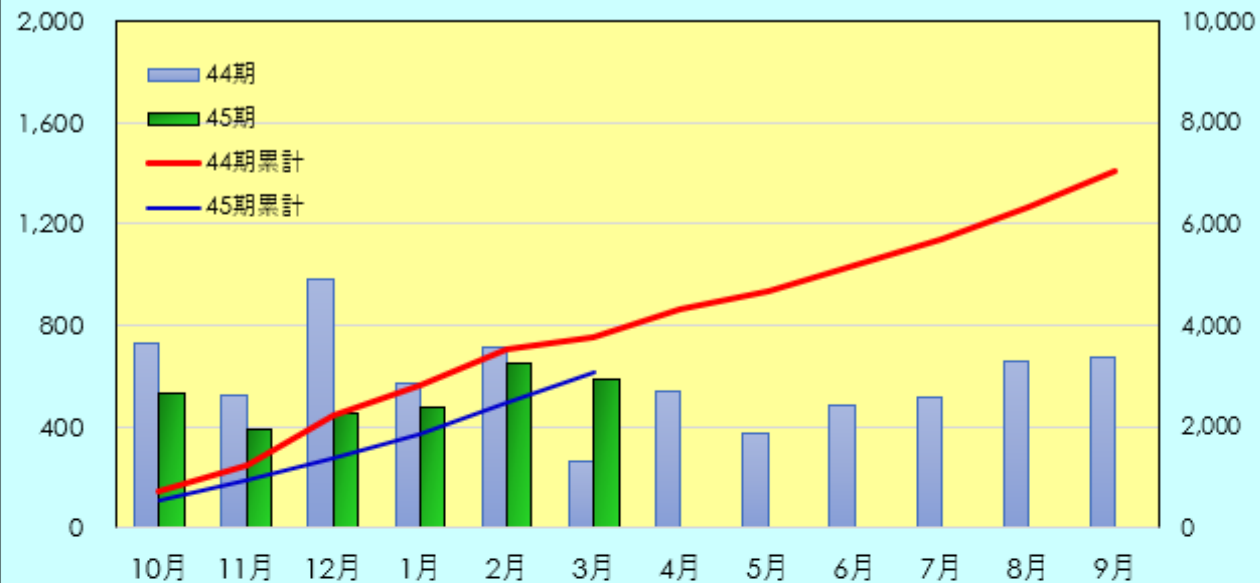
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ (kwh)

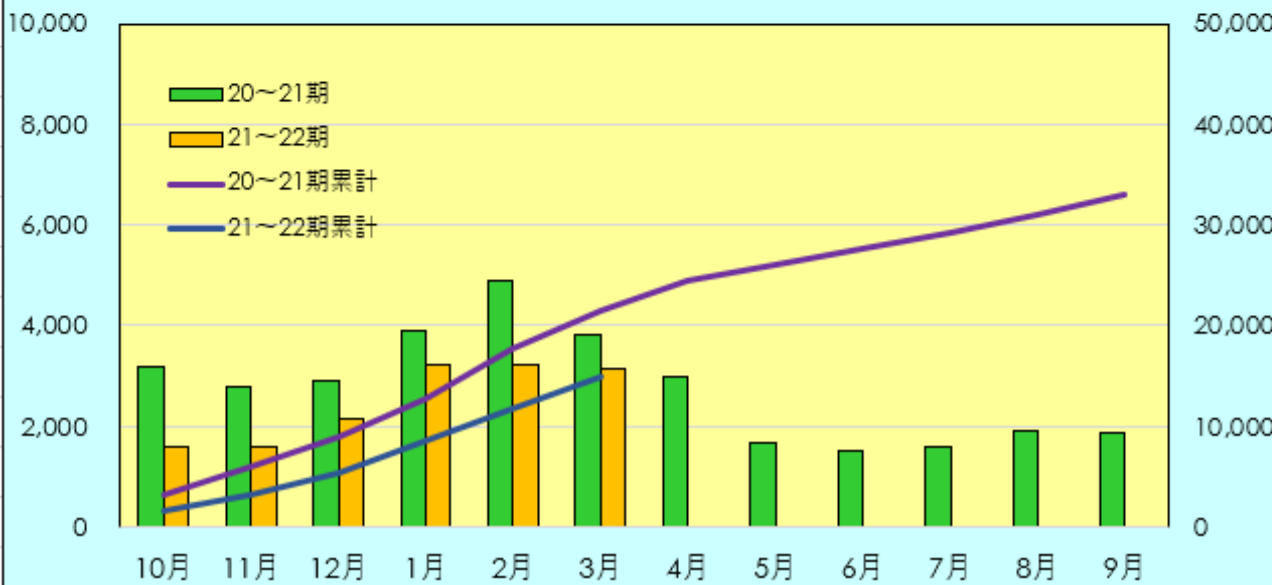
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ (kwh)

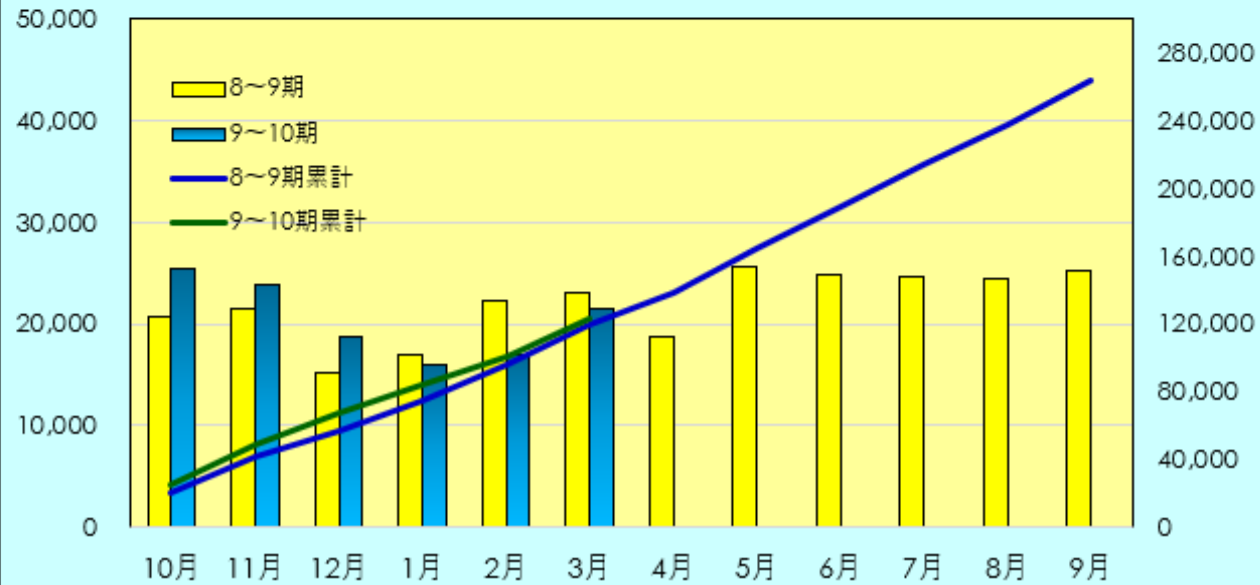
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ (kwh)

累計/棒折れ線 (kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

● 『SANSHIN大学2022年度講座終了報告』

2022年度のSANSHIN大学は、2023年3月31日をもって全講座・講義が終了致しました。新型コロナウイルスの影響でオンライン講義が多くなりましたが、サンシングループでは10年以上前からテレワークを推進していることから、問題なくSANSHIN大学の運営を継続することができました。今年度はオペレーションマネジメント研修や事業性評価・営業研修、外部講師を招いてのVE研修、新人向けのクロスSWOT分析実践研修など、多彩な講座を開催しました。

SANSHIN大学の受講は、業務に関する知識や技術の向上に効果があるだけでなく、生活や人生に役立つ知見の獲得にも役立っています。また、大学院受験や各種資格試験へのチャレンジ等、受講者の継続的なスキル・アップ、自己啓発にも繋がっています。

詳細は弊社HP (<https://sanshin-ele.com/SSSU2022.html>)にて
ご確認下さい。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（3月参加人数：延べ3名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 飼い主のプロを育てる「ドッグライフアカデミー」を創設（ミタスライフ）

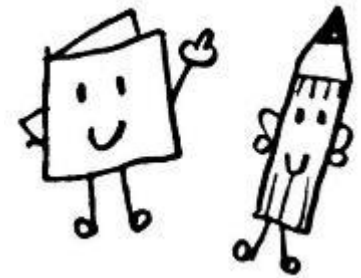


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2022年5月更新）⇒6年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA取得や資格取得を積極的に支援（毎年3～4名利用）
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

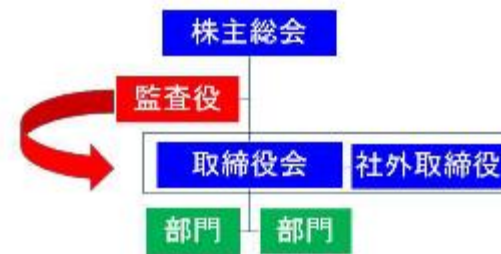
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成

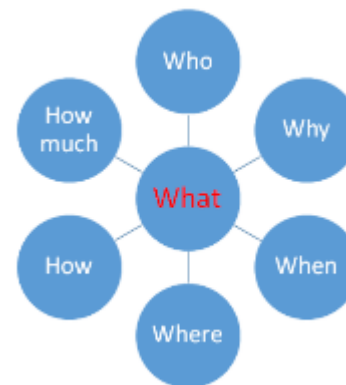


マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



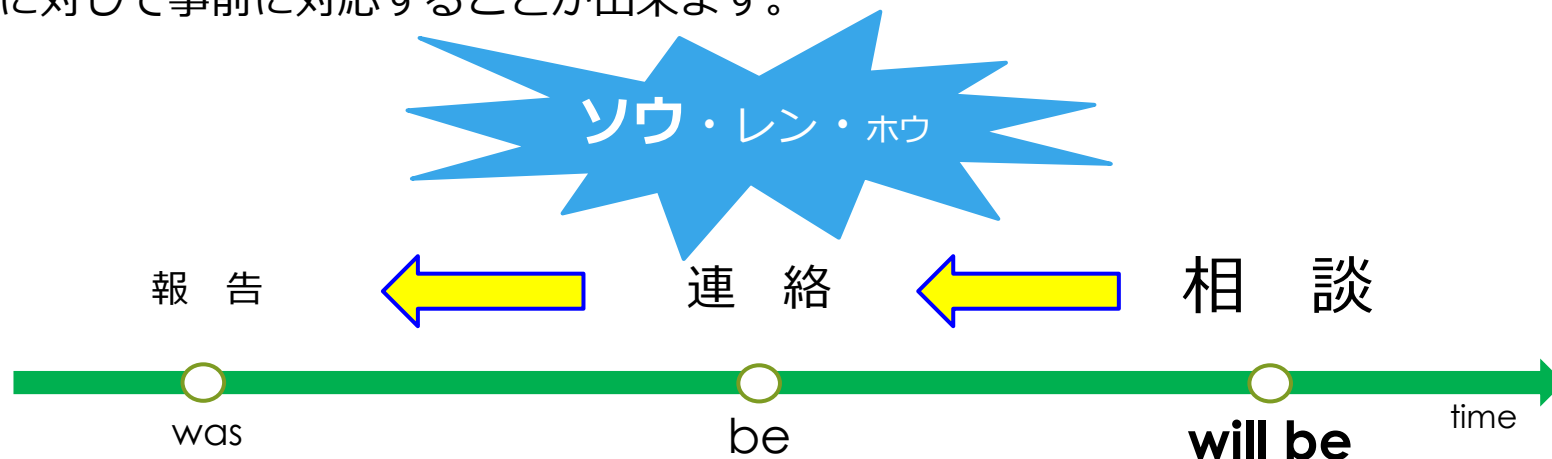
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるホウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

今年もようやく花粉も終わりそうです。私の場合は今年は特に喉をやられてしまいました。今までは主に鼻の症状でしたが、今年はそれに加え喉...、花粉が協力になったのか、私の体質に変化があったのか定かではありませんが、ここ近年では非常に辛いシーズンとなりました。皆様は症状に変化はありましたでしょうか？